saveMLAK プロジェクト
2022/7/31 発行

saveMLAK ニュースレター

第 74 号

saveMLAK 年次報告会 2022 を開催しました

2022 年 7 月 2 日（土）、第 135 回 Meetup と同じ日に saveMLAK 年次報告会 2022 をオンラインで開催しました。今回は参加者同士の対話で 2021 年 6 月から 2022 年 6 月までの 1 年間の活動を振り返る会になりました。

内容は次のとおりです。

【特別報告】最近の動向について
【活動振り返り】昨年までの活動報告会資料やニュースレターの内容などをもとに活動を振り返る
【ミニワークショップ】COVID-19 公共図書館調査をちょっとやってみよう！

15:00 から 1 時間、特別報告と活動の振り返りを、16:00 から 30 分間、希望者に動向調査のミニワークショップを行いました。

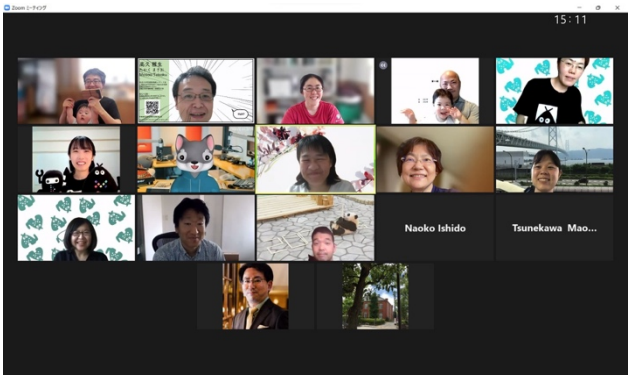
特別報告＆活動振り返りでは COVID-19 の影響による図書館動向調査の進捗状況の報告がありました。ちょうど、年次報告会を挟んで公立図書館の動向調査を実施していたため、リアルタイムでの進捗率報告になりました。

また、2021 年は休館調査だけでなく、SNS の実施状況や Wi-Fi の導入状況などの付帯調査も実施しました。調査の実施過程では、調査シートを整備してくださっている方がマニュアル化を進めてくれたことで、マニュアルや凡例を見れば、必要な作業がなんとなくわかる体制が整ってきたという前進がありました。また、saveMLAK のウェブサイトは Wiki を使っていますが、Wikipedia タウンなどで Wiki の編集に慣れたメンバーがウェブサイトの編集に参加するようになり、saveMLAK 内外での経験の蓄積が活動に反映されているという話題もありました（確かに、私自身も Wikipedia の編集で Wiki の記法に慣れたな、と思います）。

他に、2021 年の活動としては、昨年 saveMLAK がアート・ドキュメンテーション学会から「第 15 回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション推進賞」を贈られたこと、11 月の図書館総合展では saveMLAK メソッドをテーマに開催したフォーラムのこと、フォーラムでもっとオンラインで saveMLAK メソッドに関してなにかできるのでは、ということで 2022 年 3 月に実施することになった saveMLAK メソッドアクションカード作成ワークショップのことが話題になりました。

報告会の最後に、公立図書館・読書施設を対象にした COVID-19 の動向調査のワークショップを 30 分行いました。Zoom で画面共有しながら、どんなふうに調査を行っているか説明し、実際に調査してみるというものです。お陰様で、第 30 回調査は参加者が増え、17 名になりました。調査のタイミングで簡単なオンラインレクチャーの時間を作ると調査へ参加するハードルが下がるということが明らかになりました。諸般の事情からオンラインレクチャーの時間を設定できずにいましたが、毎回 1 回でもやってみるといいかもしれない、と思い始めたところです。COVID-19 の動向調査はまだ続くことになりそうなので、機会がありましたらぜひご参加をお願いします。

【子安】



年次報告会 2022 の様子（Zoom キャプチャ画面）

※saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません

専門図書館調査で「図書館」を発見する

COVID-19 libdata チーム参加の記録として、2020 年 4 月 13 日に筆者から知人に送信したメールが残っています。それは 4 月 15 日または 4 月 16 日に予定されていた調査のお知らせと「誘い」でした。

2020 年 4 月 16 日全国の公共図書館・公民館図書室等を対象とする調査が始まりました。その後、2020 年 6 月 11 日から 7 月 4 日にかけて専門図書館調査が実施されました。事前打ち合わせで示されたのは「休館」定義の違いです。

公共図書館調査では「休館は、開館エリアへの利用者の立ち入りを許可しているかどうかを基準」としましたが、専門図書館調査では「「開館」「閉館」の判断は図書館の表現を優先」「来館サービスを停止していても遠隔サービスを提供していれば閉館としていない場合」がある、としました。

専門図書館調査では、サービスが提供されていれば「開館」とするという凡例の設定は、そのまま公共図書館と専門図書館の性質の違いであり、専門図書館の意義を考えるきっかけになりました。

また実際の調査では、TOP ページに「開館」情報が掲載されていないことが多く、組織図や CSR 活動報告書なども確認するようになり、組織の中での専門図書館の位置・その機能を知ることになりました。

2022 年 6 月の専門図書館調査では「誰でも利用できる“公開型”の専門図書館」が対象になっています。筆者は「ふじのくに地球環境史ミュージアム」を調査対象に追加しました。

「ふじのくに地球環境史ミュージアム」は、廃校をリノベーションした静岡県の博物館です。図書室を有し、所蔵品・所蔵図書データベースが公開されています。施設だけでなく、archives も公開されているのであれば、専門図書館と言えるのではないか。

「図書館」を再定義し、発見する。筆者が調査を継続する動機になっています。

【Sigure Uchita】

専門図書館調査を使いこなす！

公共図書館で働く私にとって、専門図書館はその名のとおり専門的な資料がとても魅力的な場所です。そして実際に訪れてみると、その情報の深さに圧倒されます。COVID-19 の専門図書館調査は、専門図書館のコロナ禍の状況がわかるほか、専門図書館の情報が一覧になっていることにも価値があると考えます。さらに深く調べるために、専門図書館の利用もおすすめです。そのひとつの形として、5 月に行った「Wikipedia OYA」という企画で雑誌の図書館大宅壮一文庫を訪れました。図書だからわかることもあれば、雑誌だからわかることもある、と体感しました。

以下は、メールマガジン「ACADEMIC RESOURCE GUIDE（ARG）」905 号に掲載された報告です。私もまだ初心者ですが、調べ物の際には専門図書館もおすすめです！

【三浦なつみ】

「Wikipedia OYA を開催しました」

三浦なつみ（墨田区立緑図書館、日本図書館協会認定司書 1154 号）

■概要

2022 年 5 月 28 日（土）、雑誌の専門図書館「大宅壮一文庫」（東京都世田谷区）を会場とした有志企画、「Wikipedia OYA」[*1] を開催した。スタッフとして企画に賛同し、参加した視点からこの企画について紹介したい。

この企画は、誰もが編集可能なインターネット上の百科事典 Wikipedia の記事を、「大宅壮一文庫」が所蔵する雑誌を用いて執筆・編集をするというもので、ウィキペディアンとスタッフ合わせて 10 人によりオフラインで行った。当日参加したウィキペディアンは、さえぼー、Swanee、逃亡者、のりまき、Eugene Ormandy（企画立案者）である。

コロナ禍という状況を考え、広く告知をせず有志によるクローズドな企画とした。本来は昨年の 4 月に実施を予定していたが、感染拡大状況により延期し、この 5 月での実施となった。当日の様子や情報は#WikipediaOYA でも発信されている。

※saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません

■企画趣旨

「Wikipedia OYA」は、雑誌という社会の動きや流行などその時代を色濃く表す媒体と、Wikipediaの相性の良さを広く知ってもらい、活用していくことを目的とした有志が集まって企画した。

雑誌は一冊にさまざまなトピックが点在しているため、必要とする情報を探し出すことは難しい。しかし、大宅壮一文庫による独自の大宅式索引分類法により、求める情報に辿り着きやすい。

膨大な資料があって手に取れること、索引によって検索が容易であること、そしてこれらの価値を執筆者であるウィキペディアンや記事を読む方に伝えたいということから大宅壮一文庫を活用するこの企画が生まれた。

■大宅壮一文庫

日本で初めての雑誌図書館「大宅壮一文庫」は評論家・大宅壮一（1900年～1970年）の没後、そのコレクションを「多くの人が共有して利用できるものにしたい」という遺志に基づき1971年に設立された。

昨年（2021年）には設立50周年を迎え、現在も雑誌の収集を続けている。その種類は約1万2000誌にもなり、新聞やテレビなどの報道機関や調査研究などに活用されている。

しかし、インターネットの普及やコロナ禍の影響も大きく、近年は利用収入減から存続が危ぶまれている。2017年にはREADYFORを活用したクラウドファンディング[*2]も実施され、目標額を約3日で達成した。現在もパトロネージュという形で支援を募っている。

■テーマは「パン」

雑誌という特性を活かしたテーマとして、今回は「パン」が選ばれた。きっかけは、大宅壮一文庫のホームページの索引紹介ページだ[*3]。

テーマに沿った索引を集めて掲載しており、その中の「カレーパン」をヒントにこのテーマに決まった。また、単行本としてはまとまっておらず、Wikipedia上でも充実していない項目というのも理由である。

■企画当日、見学

大宅壮一文庫の鴨志田浩さんにご協力いただき、参加者に利用案内をしていただいた。まず、データベースである「Web OYA-bunko」の説明。主に1988年以降の雑誌をキーワード等により検索することができる。

私は頭がよくなると言われている「頭脳パン」について検索した。探しても見つからないと思っていた内容が、このデータベースにより見つかるという体験をした。このデータベースは、契約している公共図書館などでも利用できるがまだその数は多くない。

その後、閉架式（希望資料を職員の方に出納していただく形式）のため、通常は見られない書庫を案内していただいた。大小8室に分かれた書庫にはぎっしりと雑誌が収められていた。

現在も刊行されている雑誌の創刊号、すでに休廃刊となったもの、所蔵の中では最も古い明治8年発行の『會館雑誌』などを拝見する。また、100年前に刊行された雑誌の100年後について書かれた特集なども自らページをめくることができる。

資料が保存され、検索して見つけられ、手に取ることができる。公共図書館では、雑誌などの逐次刊行物は保存期間を過ぎると除籍してしまうことが多い。雑誌の専門図書館としての意義をあらためて感じた。

■企画当日、執筆

各自データベースや、1987年以前の目録が掲載された冊子『大宅壮一文庫索引目録』を使って必要な情報を探し、雑誌を出納する。ウィキペディアンだけでなく、スタッフも実際に利用した。

『Hanako』『東京Walker』『dancyu』などの流行や料理に関する雑誌以外に、『毎日グラフ』『週刊実話』『Seventeen』なども使われた。参加者からは「こんなに見つかるとは思わなかった」という声も聞かれた。

公共図書館で使われているMARC(機械で使う書誌情報)では、連載の詳細や特集記事の中に含まれるコラムに関する情報などは含まれていないことが多い。

企画当日に雑誌資料を出典として執筆され、公開されているのは、「ウチキパン」「かにぱん」「な

※saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません

かよしパン」「マグノリアベーカリー」の 4 記事[*4]。今後も複数の記事の公開が予定されている。

■企画を終えて

探しても見つからない情報は、ないのと同じである、と感じることが多い。反対に探し出すことができれば、その情報を使うことができる。

「本は読むものではなく、引くものだよ」と大宅壮一氏は述べたそうだが、雑誌を収集するだけでなく検索できる状態で保存している大宅壮一文庫は Wikipedia に限らず活用できる場がもっとあるように感じた。

実際に訪れるのが最適だろうが、それが難しい人のためにデータベース「Web OYA-bunko」がある。たとえば都道府県立図書館でこのデータベースが使えたら、どれだけの見つからなかった情報に出合えるだろうかと思う。この、他にない資料を持っている稀有な専門図書館をどのようにして支えていったらいいだろうか。私が企画立案者に賛同し参加したのは、この部分がとても大きい。

Wikipedia OYA は 1 回だけで終わらず続けていきたいと考えている。そして、企画を通して「大宅壮一文庫」が今後も継続し活用されるように応援していきたい。次回開催は未定だが、発信は SNS 等でハッシュタグ#WikipediaOYA をつけて行っていく。興味のある方はこのタグに注目してほしい。情報のシェアも大歓迎！「大宅壮一文庫」を一緒に応援しませんか？

■参照文献等

1. Wikipedia OYA 20220528
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88:%E3%82%A2%E3%82%A6%E3%83%88%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%81/GLAM/WikipediaOYA20220528

2. 「大宅壮一文庫を存続させたい。日本で最初に誕生した雑誌の図書館」、READYFOR
https://readyfor.jp/projects/oya-bunko

3. 索引紹介、大宅壮一文庫
https://www.oya-bunko.or.jp/magazine/introduction/tabid/86/Default.aspx

4. ウチキパン、Wikipedia
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%83%81%E3%82%AD%E3%83%91%E3%83%B3

かにぱん、Wikipedia
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%8B%E3%81%AB%E3%81%B1%E3%82%93

なかよしパン、Wikipedia
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%AA%E3%81%8B%E3%82%88%E3%81%97%E3%83%91%E3%83%B3

マグノリアベーカリー、Wikipedia
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%82%B0%E3%83%8E%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%83%99%E3%83%BC%E3%82%AB%E3%83%AA%E3%83%BC

---

saveMLAK 会計
2021 年度決算報告

年次報告会にて、2021 年度の決算ならびに監査結果について、報告しました。

決算報告書（活動計算書・貸借対照表・財務諸表注記）は、次の saveMLAK ウェブサイトページにて公開しています。

https://savemlak.jp/wiki/%E6%B1%BA%E7%AE%97%E5%A0%B1%E5%91%8A

【saveMLAK ファンド係】

※saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません

2022 年 6 月～7 月の出来事と今後の予定

6 月 11 日～17 日
　図書館の動向調査：専門図書館版

6 月 13 日
　第 134 回 Meetup を開催

7 月 1 日～9 日
　図書館の動向調査：公共図書館版
　付帯調査：デジタルアーカイブ公開状況

7 月 2 日
　saveMLAK 報告会 2022 を開催
　第 135 回 Meetup を開催

9 月 5 日
　第 136 回 Meetup を開催予定

編集後記

　2021 年度の年次報告会を開催しました。今年もオンラインでの開催となりましたが、これまでの活動を振り返り、新型コロナウイルス感染症の流行の中、活動形態が限定されながらも様々な活動をおこなっていけることを共有できたと思います。

　2020 年度の MLAK 利用者数は感染拡大前の半分以下に減り、過去最低であったとの報道がありました。直接の来館が叶わなくても、オンラインギャラリートークなど、MLAK を利用していただける工夫が現在でも続けられています。それら活動も saveMLAK でまとめていけることができればなと感じています。

【あこたかゆき：編集担当】

編集発行：saveMLAK プロジェクト
発行日：2022 年 7 月 31 日（日）（第 74 号）
発行所：神奈川県横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル
　　さくら WORKS<関内>407
　　アカデミック・リソース・ガイド株式会社内
　　saveMLAK プロジェクト
E-mail：pr@savemlak.jp
URL：https://savemlak.jp/

※saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません